

令和元年度秋田県埋蔵文化財センター一運営協議会 要旨

1. 日 時：令和2年2月6日（木） 14:00～16:00

2. 場 所：秋田県埋蔵文化財センター 第1研修室

3. 出席者

委 員（8名）

伊藤 雅己 委員（南教育事務所仙北出張所長）
大西 英子 委員（柵の案内人 ほたるの会）
小松 正夫 委員（秋田考古学協会会長） * 委員長
瀬田川 仁 委員（横手市立雄物川小学校長）
高橋 正規 委員（美郷町立千畑小学校長） * 副委員長
田口 雅人 委員（大仙市立神岡小学校長）
山崎 裕子 委員（ロード電子工業株式会社代表取締役社長）
渡部 育子 委員（秋田大学名誉教授）

※ 欠席者

委員（2名）

相場 勝也 委員（仙北地域振興局総務企画部地域企画課長）
高橋 規子 委員（大仙市立高梨小学校長）

事務局（8名）

谷地 薫 所長
清水 達也 副所長
柴田 卓也 副主幹(兼)総務班長
袴田 道郎 主任学芸主事(兼)調査班長
磯村 亨 主任文化財専門員(兼)中央調査班長
村上 義直 副主幹(兼)資料管理活用班長
吉川耕太郎 副主幹(兼)弘田柵跡調査事務所調査班長
乙戸 崇 文化財主事

4. 次 第

(1) 令和元年度事業報告について

資料Ⅰ 令和元年度事業報告（調査）

- 1 茱萸ノ木遺跡
- 2 烏野上岱遺跡
- 3 久保田城跡
- 4 才ノ神遺跡
- 5 赤塚遺跡

資料Ⅱ 令和元年度事業報告（活用普及事業）

(2) 第1回運営協議会における提言と対応について

資料Ⅲ 第1回運営協議会における提言と対応

(3) 令和2年度事業計画について

資料Ⅳ 令和2年度事業計画（調査）

資料Ⅴ 令和2年度事業計画（活用普及事業）

5. 委員からの主な意見

(1) 提言

- ◎ 社会教育は、センター組織がどのように活かされていけば良いかという視点に立って見た時に大事。出前でも来所でも、公民館的事業とのタイアップに可能性が見いだせる。
- ◎ 美郷町の学友館の連携展示の例を県内各市町村とのタイアップにまで広げてみては。その地域の歴史や文化財について認識を深めるなど、普及を広める役割を果たすのではないか。
- ◎ 国際教養大学生とのコラボにより、秋田県内を含めた世界遺産ルートマップをつくり、実際に巡ってもらい、これに感想をいれてもらう。同大学は全国区であるから、全国や海外にまでも秋田を伝えていけるのでは。
- ◎ 従来からの広報方法に加えて、民間企業にポスター、チラシ、展示や体験キット等PR一式を数社に設置し、その結果をフィードバックしてもらう。今後はこのようなアプローチが必要になってくるのでは。
- ◎ 学習指導要領改訂で6年生の社会科の学習順が変わる。夏休み前のセカンドスクール実施が充分考えられるタイミングになる。
- ◎ セカンドスクールの利用のパンフレットに子どもの声を。「ときどきした」「たのしかった」「他の時代の勉強ももっと頑張ってみたい」等、社会科教師が子どもにこんなことをいわせてみたいと思わせる情報があると、利用を考える契機になる。
- ◎ 新聞を活用した広報を。例えば、実際に体験キットを活用した授業の様子を取り上げたり、子どもたちの感想を掲載した記事や、歴史や考古学的なテーマを盛り込んだ子ども向け特集記事には、教師がアクセスしてみたり、児童生徒の関心を促進することにつながる。
- ◎ 全県社会科研究会にブース等を設けて、全県の教師にセンターの取組みを知ってもらってはどうか。また貸出キットを持参して学校に赴き、出前講座ができなくとも貸出す等アピールするのも一策だ。

(2) 要望

- 出張展示・考古学セミナー、各地域を巡回しての事業を地域の人たちは相当楽しみにしている。各地域でくまなく実施することで、それぞれの地域住民に関心を持ってもらえるようになる。是非今まで以上に充実させて欲しい。
- 児童クラブの利用を通して一人でも二人でもいいから歴史に興味を持つものが出てくれば大変素晴らしい。今後とも取組んでほしい。

(3) その他

- 片貝家ノ下遺跡は全国的に著名な遺跡だ。できるだけ史跡を目指す方向になることを期待する。
- 遺跡に関連するイベントで、地元の方たちがボランティア等で盛り上がったり、一生懸命になって参加すると、遺跡全体が盛りあがる。携わっている職員も触発されると思う。
- マスコットキャラクターは重要なアイテム。キャラクター「がんとくん」の活躍の場がどんどん広まってくれば良い。また「がんとくん」を子どもたちにどうアピールするか。最良の方法は着ぐるみでは。子どもたちに盛りあげてもらおうという発想もある。
- 利用する側にとり、ホームページから出前講座や案内を予約できるシステムは大変ありがたい。また地図上で遺跡のリンクが張られている等大変面白かった。ただ、結局はホームページにまで導入する戦略が大切。
- 来年度の払田柵跡金曜講座に大いに期待している、考古学は一般にはなじみが無いが、このような企画によってファンの増加が期待できる。
- 払田柵はもうすぐ調査事業50周年を迎える。センターとしても良い事業をして欲しい。